

災害環境研究プログラム 全体

委員会の主要意見
現状についての評価・質問等
<p>○地域に根ざした研究として、地元への貢献は高く評価する。一方、他地域への波及効果がやや限定的な印象を受ける。一般論と各論を整理して研究体制を構築するとよいのではないか。【年度】</p> <p>○本研究プログラムを構成する各 PG 研究において、行政・社会的ニーズの高い研究および社会実装型研究が大きく進展したと評価する。【年度】</p> <p>○新しい研究分野を立ち上げそれを有効に運営されていることを高く評価する。【見込み】</p>
今後への期待など
<p>○全体としてのまとまった成果が示せれば、もっとわかりやすいように感じる。【年度】</p> <p>○自然災害や多様な産業災害などに迅速かつ効果的に対応するための環境側面からの方法論・手法として確立し、他所へ容易に移転実装できる状態まで持っていけることを期待する。【見込み】</p> <p>○福島研究の一般化が可能な知見と困難な事例を切り分け、それぞれの災害環境研究戦略を考える時期にきているように思いました。【年度】</p> <p>○地域住民だけではなく、一般国民、さらに国際社会においてこれらの成果がどれだけ認知されているのか、さらに理解を深める努力を検討されてはいかがでしょうか。国際的にも現状の取組や将来への構想を積極的に発信して、風評被害などが収まることも期待します。【見込み】</p>

主要意見に対する国環研の考え方
<p>① 全体として高い評価をいただきありがとうございます。</p> <p>② 福島での環境回復・創生研究、並びに全国を対象とした災害環境マネジメント研究において得られた知見を一般化(一般化できない部分と切り分けた上で)して、今後の災害に環境面から備える方法論・手法・ツール等を確立し、更には、持続可能な地域づくりのための社会実装を目指した研究を、次期中長期研究計画で実施したいと考えております。</p> <p>③ 福島での研究は、当地での復興を環境研究面から支援することに止まらず、現在進めている環境回復研究や環境創生研究を今後の災害に活かす研究へと展開する予定であり、現在、次期中長期計画における研究計画の検討を進めているところです。</p> <p>④ 研究成果の発信については更に創意工夫して、発信先を意識した取組を進めていきたいと考えております。御提案頂いた一般啓蒙書もしくは書籍の刊行につきまして、その可能性を検討したいと考えております。また、次期中長期計画に向けて、福島支部の広報戦略を検討していく予定です。</p>